Voices of Young Scholars 9

上海で見た、“ものを運ぶ方法”

坂井 美香 （神奈川大学大学院歴史民俗資料学研究科博士課程） SAKAI Mika

今年8月に上海を訪れた。目的はのぞきからくり、操り人形劇、皮影絵を見ること、租界時代の巷間芸能の資料を集めてくることだった。結果、老上海では町の辻々に立って商売をしていたであろう、のぞきからくり（写真1）、皮影絵はすっかり観光地の中に馴染んでいた。操り人形劇は上海やその周辺では姿を消していた。資料の方は、上海図書館で写真を撮り（中国では、図書館資料の複写はあまりポピュラーではなく、自分で写真を撮影する）、大規模書籍店、古本屋でめぼしいもの計52冊を買い、最低限のものは手に入れることができた。

しかし、目的のものを見ただけ、集めただけでは何も面白くないと、いろいろなものを見てきた。現地の市場、路上売買、いろいろな運搬風景、竹をとことん使うビルの建設現場などである。

現在の上海市は、地下鉄、軌道車が整備され、最新の都市交通システムが存在する一方で、旧来の“ものを運ぶ方法”をそのままに見ることができる。それでは、上海で見かけた“ものを運ぶ方法”いろいろを紹介したい。

写真1

のぞきからくり

写真2

地下鉄に乗る鶏

まず、一番目には地下鉄である。地下鉄には人が乗るのは当たり前だが、人の手によってさまざまなものが運ばれる。左官や清掃業の商売道具、生きたロブスターや鶏も運ばれる。駅で鶏を逆さまにぶら下げて歩く人を見かけた。地下鉄に乗せられ床におかれた鶏たちは不思議なことに座ってどこへも走って行かない（写真2）。

道路ではさまざまな種類の車が走ってものを運ぶ。大八車、自転車、バス、トラック、そして自動二輪も人や物を運ぶ。

以下に、日本では見かけない三輪車三種を紹介しよう。名付けて、自転車タイプ（写真3）、原付タイプ（写真4）、オート三輪タイプ（写真5）である。それぞれに特徴を見ることができる。自転車タイプは、逆L字型のブレーキと取り付け位置に注目して欲しい。原付タイプは、座面が椅子式になっている。オート三輪タイプは、自動二輪を改造した三輪車に車体をうまくかぶせ、人を運ぶ。いずれも手作り感があり、一台一台どこかが違っている。

最後の“ものを運ぶ方法”は天秤棒を担ぐ人（写真6）である。荷担ぎに天秤棒が道具として用いられている。多く見かけるわけではないが、桃やナツメを平ザルに載せて運び、そのまま路上に置いて商いをするにも天秤棒は便利に使われている。警察の見回りが来るとさっと場所を移動する。

上海は、運ぶ道具に限らずいろいろなものが混在する場所だ。中国では、経済成長期のかつての日本と同様に、新しいもの、便利なもの、価格の高いものに価値を認める。それにもかかわらず、従来の道具が生きている。それは、人々の暮らし方がそう大きく変化をすることなく、知恵を巡らす生活に支えられていることを示すのだろう。

写真3
三輪車（自転車タイプ）

写真5
三輪車（オート三輪タイプ）

写真4
三輪車（原付タイプ）

写真6
天秤棒を担ぐ人